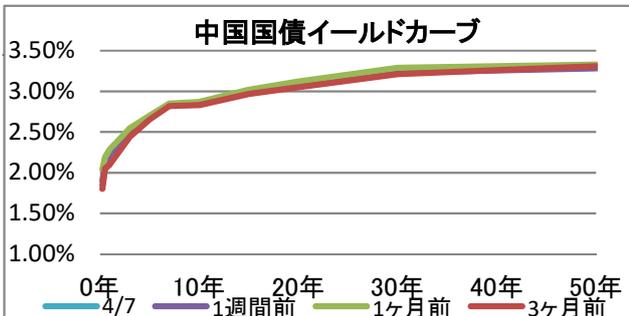
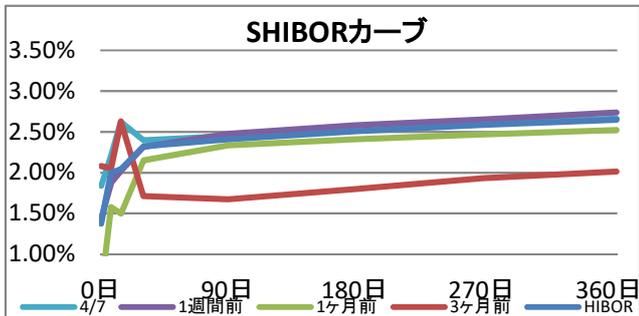


基準レート		2023/4/7	(前週末比)
人民元基準値	USD/CNY	6.8838	+0.0121
	JPY/CNY	5.2253	+0.0560
SHIBOR	3M	2.4100%	-0.0380%
国債利回り	10年	2.85%	+0.00%
上海総合指数		3,327.65	+54.79



(1) 概況

国際金融市場では、欧米での金融システム不安が後退する中、週初はOPECプラスの追加減産による動揺も見られたが、週末に祝日や米雇用統計を控えていることや、その後に公表された米経済指標の悪化を受けて債券が買い戻され、為替市場ではドル安が進行。株式市場では、経済指標悪化を受けて利下げ前倒し観測が浮上するも、景気の先行き不透明感が重しとなり総じて弱含みの展開。

中国金融市場では、アリババグループの事業再編等により中国政府のハイテク規制への懸念が後退する中、財新PMIが週初に公表された製造業は悪化していたものの、非製造業では改善が確認されたことから株価は緩やかに上昇したが、台湾総統の訪米や半導体関連を巡る米中間の緊張や清明節休暇もあって、資金市場、為替市場、債券市場とも小動きに終始。

中国では、習主席が、自らの指導思想学習徹底を全党向けに号令するなど統制を強める一方、訪中した欧州首脳と会談し、ウクライナ問題や経済協力等に関して協議し、マクロン仏大統領には2度に亘る会談等の異例待遇を行い、シンガポールのリー首相とも会談し、協力関係強化に合意している。李強総理は、国務院常務会議で輸出安定策を指示し、易人民銀行行長は講演で、人民銀行の任務として通貨の安定と共に金融の安定の重要性を強調し、人民銀行高官等が寄稿文を通じて米金融機関の経営破綻を教訓に、中国の金融リスク管理強化や法制度の改善を主張。証監会は「証券会社の監督管理条例（パブコメ）」や「改定・先物取引所管理法」を公表。訪中した余偉文香港金融管理局総裁は、人民銀行行長や証監会主席と会談し、双方の金融市場発展のための協力推進で合意し、中国と香港間の「スワップコネクト」に関して当局が承認との報道も見られた。外交面では、日本の半導体関連輸出規制に関し中国商務部が反発したほか、中国のWTO調査要求、米半導体大手製品に対する調査着手、レアアースを使った高性能磁石の製造技術禁輸検討が報じられ、また、台湾蔡総統の訪米やマッカーシー米下院議長との会談に対して中国が報復措置を示唆し、中国軍が軍事演習を行うなど、半導体や台湾を巡る米中摩擦が懸念されている。

(2) 金融市場調節

中国人民銀行は、リバースオペ期日11,610億元に対し、リバースオペ290億元を実施し、ネットで11,320億元を吸収。

(3) 主な経済指標

・財新PMI (3月) は、製造業が50.0 (2月、51.6) と2か月振りに低下した一方、非製造業が57.8 (2月、55.0) と2020年12月以来の高水準となり、総合では54.5 (2月54.2) と3か月連続の改善となった。製造業は、業種による生産回復のばらつきや海外需要の弱さ等より低下したが、非製造業はゼロコロナ措置撤廃後の回復が鮮明となり、全体の回復を牽引。

② 資金市場

(1) 人民元資金市場

	SHIBOR	無担保資金	レポ	NCD AAA
ON	1.3740%	1.4500%	1.4500%	
1W	1.9970%	2.1000%	1.7000%	
2W	2.0460%	2.1000%	2.5000%	1.9200%
1M	2.3220%	2.5500%	6.5000%	2.3200%
3M	2.4100%	3.4500%	2.6000%	2.4300%
6M	2.5070%	2.6400%		2.5300%
9M	2.5860%	3.2500%		2.6300%
12M	2.6490%	2.8490%		2.6500%

四半期末明けの月初の資金余剰を中国人民銀行が大規模資金吸収で調整を進めているものの、資金余剰となっているレポ市場の取引高は過去最高を更新している。ターム物金利水準は四半期末要因剥落により安定しているものの、1ヶ月が2.5%前後で取引されている以外、出合いは限定的。

NCDも、様子見姿勢から動意が見られず、狭いレンジ内での取引が続いている。ターム物の金利水準は、1ヶ月が2.3%前後、3ヶ月が2.4%台、6ヶ月が2.5%台、1年が2.6%台にやや上昇して取引されている。

(2) 米ドル資金 (本土内)

	BID	OFFER
ON	4.85%	4.86%
1W	4.95%	4.98%
1M	5.18%	5.25%
3M	5.30%	5.40%
6M	5.40%	5.50%
12M	5.50%	5.60%

経済指標の悪化が続き、金融引締め停止への期待が高まったものの、週末に祝日と雇用統計を控えて様子見が続き、ターム物の出合いは引き続き限定的。ターム物の金利水準は、1ヶ月は5.2%前後、3ヶ月は5.35%前後での取り気配が続いている。

③人民元債券市場

	国債	地方債AAA	金融債AAA	社債AAA	社債AA
3M	1.85%		2.46%	2.58%	2.75%
6M	2.05%		2.51%	2.65%	2.82%
1Y	2.23%	2.26%	2.66%	2.74%	2.92%
3Y	2.51%	2.68%	2.83%	3.08%	3.62%
5Y	2.69%	2.84%	2.98%	3.25%	3.96%
10Y	2.85%	3.00%	3.23%	3.52%	4.33%

欧米での注目が金融システム不安から景気後退に移り、地政学的リスクの高まりへの懸念も高まったものの、週末の祝日と米雇用統計を控えて総じて小動きとなり、中国国内債券市場も材料難から小幅な値動きが続いている。米国では経済指標の悪化により10年国債利回りが3.39%（前週比-8bp）に低下しており、10年中国国債（2.85%、±0bp）に対する上回り幅は+54bp（同-8bp）へと縮小に転じている。

イールドカーブには概ね変化しないものの、短期と信用債で小幅に低下したことからスティーピング傾向が続き、クレジットスプレッドはやや縮小したものの、いずれも調整の範囲内。

④先物為替市場

	USD / CNY
1M	-179.8 / -179.0
3M	-535.5 / -535.0
6M	-1001.0 / -998.0
9M	-1378.0 / -1376.0
12M	-1643.0 / -1638.0

対ドル基準レートは6.8838と前週末比+121pipsのドル高元安、対円基準レートは5.2253と同+560pipsの円高元安と、市場での膠着状況を映じた前週末の水準近辺での設定が続いた。中国国内市場では、国内外での祝日と米雇用統計を控えて様子見姿勢が強まる中、中国国内景気回復に対する懐疑的な見方と米金融引締め停止への期待の高まりから方向感のない、狭いレンジ内での取引に終始。

先物は、米国の経済指標が予想を下回る減速を示すものが多く、FRBの利上げ停止期待が高まったこと等からマイナス幅が縮小に転じ、1年では-1700台から徐々に-1600台前半まで縮小する展開となった。

⑤金利スワップ

	Quarterly 7d Repo A/365	Quarterly 3M SHIBOR A/365 A/360	Annually O-N SHIBOR A/365 A/360
3M	2.27%		1.74%
6M	2.31%	2.47%	1.80%
9M	2.34%	2.52%	1.85%
1Y	2.37%	2.59%	1.90%
3Y	2.64%	2.95%	2.03%
5Y	2.84%	3.23%	
7Y	2.96%	3.38%	
10Y	3.08%	3.51%	

スワップ金利も、債券市場同様に動意ない中でやや上昇している。債券利回りとの金利差であるスワップスプレッドも概ね前週末と変わらない水準となっている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。